

平成29年度 たまの版CCRsea懇談会 第3回会議 議 事 概 要

日 時	平成 30 年 3 月 26 日 (月) 13:30~15:00																																																					
場 所	玉野市役所 3 階 特別会議室																																																					
出席者 (敬称略)	<p>【委 員】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">学校法人加計学園玉野総合医療専門学校介護福祉学科長</td> <td style="width: 20%;">五嶋</td> <td style="width: 20%;">幹雄</td> </tr> <tr> <td>玉野市医師会 会長</td> <td>渡邊</td> <td>正俊</td> </tr> <tr> <td>社会福祉法人玉野市社会福祉協議会 総合福祉課長</td> <td>三宅</td> <td>啓之</td> </tr> <tr> <td>玉野商工会議所青年部 直前会長</td> <td>岡崎</td> <td>晋典</td> </tr> <tr> <td>公益社団法人玉野市観光協会 専務理事</td> <td>池田</td> <td>敦子</td> </tr> <tr> <td>うのづくり実行委員会 実行委員長</td> <td>森</td> <td>美樹</td> </tr> <tr> <td>UNOICHI 実行委員会 営業部長</td> <td>福嶋</td> <td>栄里子</td> </tr> <tr> <td>公募委員</td> <td>木下</td> <td>雅行</td> </tr> </table> <p>※公募委員の岡崎文代氏は欠席</p> <p>【オブザーバー】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 60%;">一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 代表理事</td> <td style="width: 20%;">京谷</td> <td style="width: 20%;">潤</td> </tr> </table> <p>【事務局・委託業者】</p> <table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 40%;">玉野市 政策財政部</td> <td style="width: 20%;">部長</td> <td style="width: 40%;">加藤 翔大</td> </tr> <tr> <td>政策財政部総合政策課</td> <td>課長</td> <td>中嶋 英生</td> </tr> <tr> <td>政策財政部総合政策課</td> <td>参事</td> <td>小笠原隆文</td> </tr> <tr> <td>政策財政部総合政策課行政管理室</td> <td>室長</td> <td>山平 智宏</td> </tr> <tr> <td>政策財政部総合政策課</td> <td>主任</td> <td>佐藤 健介</td> </tr> <tr> <td>産業振興部</td> <td>部長</td> <td>尾崎 敬一</td> </tr> <tr> <td>産業振興部商工観光課</td> <td>主事</td> <td>佐々木裕介</td> </tr> <tr> <td>株式会社日本総合研究所</td> <td></td> <td>川上 佐知</td> </tr> </table>			学校法人加計学園玉野総合医療専門学校介護福祉学科長	五嶋	幹雄	玉野市医師会 会長	渡邊	正俊	社会福祉法人玉野市社会福祉協議会 総合福祉課長	三宅	啓之	玉野商工会議所青年部 直前会長	岡崎	晋典	公益社団法人玉野市観光協会 専務理事	池田	敦子	うのづくり実行委員会 実行委員長	森	美樹	UNOICHI 実行委員会 営業部長	福嶋	栄里子	公募委員	木下	雅行	一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 代表理事	京谷	潤	玉野市 政策財政部	部長	加藤 翔大	政策財政部総合政策課	課長	中嶋 英生	政策財政部総合政策課	参事	小笠原隆文	政策財政部総合政策課行政管理室	室長	山平 智宏	政策財政部総合政策課	主任	佐藤 健介	産業振興部	部長	尾崎 敬一	産業振興部商工観光課	主事	佐々木裕介	株式会社日本総合研究所		川上 佐知
学校法人加計学園玉野総合医療専門学校介護福祉学科長	五嶋	幹雄																																																				
玉野市医師会 会長	渡邊	正俊																																																				
社会福祉法人玉野市社会福祉協議会 総合福祉課長	三宅	啓之																																																				
玉野商工会議所青年部 直前会長	岡崎	晋典																																																				
公益社団法人玉野市観光協会 専務理事	池田	敦子																																																				
うのづくり実行委員会 実行委員長	森	美樹																																																				
UNOICHI 実行委員会 営業部長	福嶋	栄里子																																																				
公募委員	木下	雅行																																																				
一般社団法人玉野コミュニティ・デザイン 代表理事	京谷	潤																																																				
玉野市 政策財政部	部長	加藤 翔大																																																				
政策財政部総合政策課	課長	中嶋 英生																																																				
政策財政部総合政策課	参事	小笠原隆文																																																				
政策財政部総合政策課行政管理室	室長	山平 智宏																																																				
政策財政部総合政策課	主任	佐藤 健介																																																				
産業振興部	部長	尾崎 敬一																																																				
産業振興部商工観光課	主事	佐々木裕介																																																				
株式会社日本総合研究所		川上 佐知																																																				
配布資料	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 15%;">資料 1</td> <td style="width: 85%;">たまの版生涯活躍のまち (CCRsea) 基本計画 (案)</td> </tr> <tr> <td>資料 2</td> <td>たまの版生涯活躍のまち (CCRsea) 基本計画 (案) 修正対応表</td> </tr> <tr> <td>参考資料 1</td> <td>各委員からのご意見について</td> </tr> <tr> <td>参考資料 2</td> <td>基本計画の記載内容に関する主なご意見</td> </tr> </table>			資料 1	たまの版生涯活躍のまち (CCRsea) 基本計画 (案)	資料 2	たまの版生涯活躍のまち (CCRsea) 基本計画 (案) 修正対応表	参考資料 1	各委員からのご意見について	参考資料 2	基本計画の記載内容に関する主なご意見																																											
資料 1	たまの版生涯活躍のまち (CCRsea) 基本計画 (案)																																																					
資料 2	たまの版生涯活躍のまち (CCRsea) 基本計画 (案) 修正対応表																																																					
参考資料 1	各委員からのご意見について																																																					
参考資料 2	基本計画の記載内容に関する主なご意見																																																					

議 事

1. 開 会

2. 開会あいさつ

3. 議事

・事務局より、下記についての資料説明あり

- ① たまの版生涯活躍のまち（CCRsea）基本計画（案）
- ② たまの版生涯活躍のまち（CCRsea）基本計画（案）修正対応表
- ③ 各委員からのご意見について
- ④ 基本計画の記載内容に関する主なご意見

→ 質疑は以下のとおり。

A委員 : 「各委員からのご意見について（参考資料2）」にある『たまのオリジナル』が分かりにくいという指摘について、『お宝たまの印』と『たまのオリジナル』のすみ分けはどのように考えるのか。一体化するイメージなのか。「たまのオリジナル」と「お宝たまの印」が両方存在して動くというイメージか？

事務局 : 「お宝たまの印」は多くが食で、一部民芸品も含まれる。一方、「たまのオリジナル」は食に限らず、気候や自然など地域資源のことである。
「たまのオリジナル」は今後、そのもの自体を売り出すというよりは、それらを活用して様々なサービスを展開していこうとするもの。「たまのオリジナル」を活用し、「お宝たまの印」に連なるものが増えることを期待している。

B委員 : 「たまのオリジナル」の中に「お宝たまの印」も含まれるという認識ではないか。

A委員 : 「たまのオリジナル」と「お宝たまの印」は異なるものであると認識した。認定は「お宝たまの印」として採っていただくということ。ただ、一本化すればよいと思っている。

事務局 : 「お宝たまの印」とは玉野をイメージできるものとして、農産物や民芸品、加工品などを玉野特産品協議会で認定する制度。一方で、「たまのオリジナル」とは玉野の気候や自然などの地域資源という意味で言葉を活用している。確かに、現状として棲み分けがわかりづらいかもかもしれないが、商工観光課としては、より「お宝たまの印」をう売り出していきたいという思い

もあり、制度の見直しも含め言葉の使い方を考えていきたい。

A委員 : 私はファジーなので一体化するべきと考えているが、「お宝たまの印」についてはルールがあるが「たまのオリジナル」はない。すみ分けるにしても、一体化するにしても、そのルールを明文化するべき。

事務局 : 「たまのオリジナル」に関する説明は、基本計画の10ページにも記載しているのでご確認いただきたい。

C委員 : 「たまのオリジナル」は玉野の自然資源など、私たちが玉野で持っているといえるものを、言い方を変え表現しているだけという認識。それに対し、例えば、シールを貼ること等の手法によってブランド化するという「お宝たまの印」は、全く違う次元のものと認識している。あくまで「たまのオリジナル」の中に「お宝たまの印」があるというイメージをもっている。わざわざそれを明文化してルールなど作る必要はないのではないかな。

A委員 : 市民にわかりやすくしてほしい。

D委員 : 「たまのオリジナル」と「お宝たまの印」をあえて別か、と聞かれたら別物ですよという話になるが、「たまのオリジナル」という大きな概念の中に「お宝たまの印」があるということでわかりやすいのではないかな。

B委員 : 若者が移住してこないという事実に対し、若者が移住してくるような雇用を玉野市は確保・維持できているのか。
また、委員の意見として「精神的な要素（歴史・伝統・文化・芸術・コミュニティなど）も同じぐらい重要」と書かれているが、確かに風光明媚な自然の美は玉野にあるが、美術館などの施設がない。渋川海洋博物館も改装せずにそのままであるが、改装すればもっと人は来るはず。それも歴史・文化ということで、改修等する予定はないのか。

事務局 : 海洋博物館について現時点では改修予定はない。

B委員 : 高齢者たちには心のゆとりが必要。そういった意味で、美術館などの施設が市内に点在していればよい。玉野は非常に風光明媚なところなので、そういった施設を充実していくことで少し街も変わってくると考える。
また若者については、教育や交通の便がよい、職の面も踏まえて考えなければいけないが、そういったことを行政側が今は十分対応できていないという事実がある。

- D委員 : これは広報の問題でもあると考える。確かに変えていくことはお金をかければできるが、今あるものがどういう特徴を持っているのか、情報発信基地を作って広報をすることを、我々が地域を知るということも含め、考えていかなければいけない。確かに既存のものでは古いだけかもしれないが、そこに光るものを見つけ、発信していくことに力を注いでいく必要があるのではないかと。
若者の雇用についてはどうか。市民説明会の時にも、参加者から、大学生の雇用が見えてこないという話があった。
- 事務局 : 確かに、市民説明会では大学生と市内企業を結ぶツールがないというご意見も出た。現状、高校生に比べて、大学生については連携の機会が少ないと思われるので、その点は考えていきたい。
- B委員 : 移住してきた方は本当に定住できているのか。やはり移住は難しいということであきらめる人もいるのか。
- E委員 : 現状、割合としては定住してくれている方が多いと思うが、中には仕事の関係等で転出される方もいる。雇用については、できる限り地域の方にも協力頂きながら情報提供している。また、玉野市の場合は、玉野に住みながら岡山や倉敷、直島等で仕事をする 것도可能なので、あまり形態に縛られることなく、気に入ってくださった玉野に住みながら仕事のエリアを広げるなど、様々な可能性を含め情報提供している。逆に、自分でやりたい仕事を実現するという意味では、玉野市の場合、まだ難しい面もある印象。
- B委員 : 商店街でも移住者が様々なお店を開業しているが、曜日限定しているお店も多く、市民にはわかりづらい。足が遠のく原因になっている。
- E委員 : その辺りは、私どもとしても、もう少し情報発信等工夫していきたい。また、すぐの対応は難しいかもしれないが、お互い歩み寄れるような対応・サポートを考えていきたい。実際、お店を運営している移住者たち中には、それ一本で生活していくのは難しく、開店曜日を限定して、兼業しながら生活なさっている方が多いのも事実である。人が増えれば、徐々に開店日も増え、お店だけでも生活ができるようになってくると思うので、そういった点も含め、市民の方々には、少し温かく見守っていただきたい。
- D委員 : お互いが理解するにはある程度の期間も必要である。情報発信・情報共有

も今回の計画に重点的に入っている印象なので、それを徐々に具体化していくことが大切。今すぐに何かを作っておくことは難しいので、今あるものを少しずつ知ってもらいながら広げていくことが大切だと考える。

C委員 : 我々が、今、しなければいけないことは、将来、自分たちが年老いた時のために、どういう街を作っておかなければいけないか考えること。今ここに書かれている計画のすべては、自分たちが玉野市に住み続けることを踏まえ、玉野市民のためのあるべき施策である。いかに自分たちのためによい街を作っていくかということに焦点をあてて、我々も取り組んでいきたい。せっかく玉野に住んでいるのだから、計画を進め、景観のよいところで余生を楽しみながら暮らせる街ができればよいと思う。もちろん、お金をかければよいという話もあると思うが、今から計画すればできないことはないと思う。

F委員 : ハードを整えることも大切ではあるが、地域で支えあうといったソフトの仕組みも大切である。住民が支えあう仕組みを社会福祉法人でも作っているが、今、何が一番進めづらいかというと活動拠点である。活動拠点がなから話が進まないという声もあり、拠点ができるのであれば、移住者も参加しやすく、そこに市民も集まり、交流も増える。今後、可能であれば、そういった施設・拠点を整備して頂きたい。

D委員 : いま、特別養護施設などは必ず地域交流スペースを作ることになっている。地域住民やボランティアが積極的に参画している事例もある。玉野市にはたくさんの施設があるが、それが見えてこない。病院や施設、医療、介護の情報等に加え、そういった活動も含め、今あるものを出していくべき。社会福祉法人の動きも知ったばかりではあるが、そういった動きがあるのであれば移住者にも、市民にも、若者にも 移住者にも若者にも参画していただけるような形にすることが必要。

B委員 : 今後、認知症患者もますます増えることが想定される中、共存することを考えていかなければいけない時代になっていく。そこで医師会と社会福祉法人は一緒になって地域包括ケアシステムというものを構築している。その中で、中学校区単位に小地域ケア会議を立ち上げ地区ごとに何が問題なのかを考え対応していくというシステムがすでに玉野市にはある。その一番のベースは日本版 CCRC であり、それをベースとしながら対応していけば、観光も踏まえ、多職種連携でいろいろな構造が見えてくると思う。確かに、多くの方はあまり知らないと思うが、玉野市の医療・介護はかなり頑張っている。それを発信するのは行政なので対応をお願いしたい。

- D委員 : 実際に認知症になった人も、結局玉野市の施設に助けてもらうケースが多い。玉野市内はそういう相談もでき、生活も助けてくれる施設があるということ。それを移住者や観光客、また他の市民にも伝えてことが大切。その中心が計画の中にもある情報プラットフォームの整備ということになる。その上で、事業者も次へとつなげていけるように、我々委員もそれに協力して、どんどん CCRC がうまく進むようにしていきたい。
- やはり、これ自体は新しいものを作っていく話だけではないと思う。もちろん病院は重要なものではあるが、玉野市の自然の中で普通に歩いていることが海洋療法になることなども、もっとわかっていたことが大切。そして、それらが商品化されるようなことになれば、外から人も集まり、また市民も活用してもらい、その広がり生涯活躍のまちに繋がっていくというのがこの計画の意味ではないか。
- A委員 : 玉野市は景観計画ができていないことも、景観整備の遅れに繋がっている。よって、景観形成のための計画づくりが必要。点ではなく、線であり、その場を活性化させることで面的な広がりを出していくことが重要である。そういった意味でも、まずは計画づくりをスタートして、その計画に基づき資金をとってることが大切。
- B委員 : いま高齢者人口は増えているが、施設はこれ以上増えることはない。5、6年後がピークといわれており、既存の施設を使って対応するかを考えなければいけない。
- D委員 : 今ある施設にロスがないようにするべきである。
- また、先ほど話の出た点が線、面になる話は大きなポイントであると思う。例えば、玉野市には宿泊施設がないという話もよく効くが、渋川にはあり、そこへ行ってもらうためには、動線を整備することが必要。計画の中にもあるように、常に広域的な展開を考えながら、点が線、面になっていくような作業が必要で、医療や介護、健康も一つになっていくような形をこの CCRC の取り組みでつくり、魅力あるまちづくりに繋げていってもらいたい。

4. その他

・事務局より、次の事項について報告あり

- 本懇談会の内容を踏まえ、今月中に基本計画をとりまとめる。
- 基本計画策定後は、各委員へ計画を送付させていただく。

5. 閉会

以上